

【開催日時等】

- 1 開催日時：令和7年11月6日（木） 午後3時から午後4時30分
- 2 開催場所：長野市役所第一庁舎7階 第一・第二委員会室
- 3 出席者：別紙名簿のとおり

【議事次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 協議事項
 - (1) 令和6年度第二期長野地域スクラムビジョンの達成状況
 - (2) 第二期長野地域スクラムビジョンの改定
 - (3) 第三期長野地域スクラムビジョンの策定
- 4 意見交換
- 5 閉会

【議事要旨】

2 挨拶（長野地域連携推進協議会会長 長野市 萩原市長）

令和7年度の第1回長野地域連携推進協議会開催の御案内を申し上げたところ、皆様大変お忙しい中、御出席賜り御礼を申し上げます。

さて、県内における人口減少と少子化が進行する中、長野地域の自治体が一体となって進めている、この連携中枢都市圏の取組の重要性が増してきていると感じている。

本日、まずは令和6年度のスクラムビジョンの達成状況と、現行の第二期スクラムビジョンの改定について御説明した後、令和8年度を開始年度とする次期スクラムビジョンの素案について御説明する。

次期スクラムビジョンにおいては、長野圏域内の連携をより一層深め、魅力あふれる長野圏域を共に盛り上げ、地域特性を活かした取組を進めていけるよう、連携事業の見直し等を図っている。

限られた時間ではあるが、長野圏域の更なる発展に向け、忌憚のない御意見を賜るようお願い申し上げます、挨拶とする。

3 協議事項

- (1) 令和6年度第二期長野地域スクラムビジョンの達成状況

事務局

資料1について説明

坂城町山村町長

圏域全体の経済成長の分野の基本目標には、連携中枢都市である長野市の1人当たりの総生産を指標としているが、須坂市では大規模商業施設が新たに立地し、坂城町においても、5年前と比べると、生産額が数千億円単位で増加しているため、圏域全体の総生産を算定し、圏域全体の成長を評価できる指標を検討してもらいたい。

また、公共交通利便性向上事業について、来年3月にはしなの鉄道でSuicaが利用可能になり、電子カードの普及が進むという観点も必要ではないか。

事務局

基本目標については、第一期から継続して指標を見るために指標を設定しているが、圏域の経済状況の変化も起こっているため、圏域の総生産について把握し検証できるのか検討していく。

公共交通利便性向上事業について、新たな連携の取組が広がる可能性もあり、それに伴い把握する目標値も出てくることが考えられるため、事業を検討する中で参考としていく。

須坂市三木市長

「おしごとながの」に関連して、御茶ノ水で開催されたナガノのシゴト博を訪れたが、新規卒業者ではなく社会人が、長野へIターンやJターンを多く希望していた。

関連して、地方回帰が増えているため、地域資源が豊富な長野地域の素晴らしさのPRや、実際に移住した感想等の情報発信をしていくとよいのではないか。

事務局

今年度もナガノのシゴト博を開催するが、指摘の通り社会人の参加者は年々増加し、最近では約半数を占めており、それに合わせ出展企業も取組の内容を検討していくという話を聞いている。

移住については、移住の感想等を把握できるように取組内容について検討していきたい。

(2) 第二期長野地域スクラムビジョンの改定

事務局

資料2について説明

(意見無し)

(3) 第三期長野地域スクラムビジョンの策定

事務局

資料3-1～6について説明

小布施町大宮町長

大規模商業施設の時給が高く、町内の企業も想定ほど影響はないとはいえ、転職による人材不足や時給の設定等に非常に苦慮している。一方で隙間バイトのように、時間で人を雇いたいというニーズがスポットで出てきている。須坂市が既に民間企業と連携しているが、事業として実施するなら、市町村単独で実施するよりは圏域で連携した方がなじむと考えている。

事務局

人材の確保や育成は圏域の共通課題として様々な場で意見をいただいている。第三期スクラムビジョンにおいても、人材関係の取組はいくつか記載しているが、隙間バイトのような取組についても、新規事業とするか、既存事業の中で新たな視点として含めるか、検討し

ていきたい。

須坂市三木市長

隙間バイトで長野市の人が須坂市に来ている例もある。隙間バイトをやる人も多く、また自分の時間を大事にしたい人も多いため、広域で進めると非常に良いのではないかと。

また、具体的に連携事業を進めるにあたり、意見交換等をどのような頻度で実施しているのか。例えば課題があった際に、圏域の担当課長にオンラインで相談できるとありがたい。

事務局

取組ごとに状況は異なるが、状況に応じて会議等の頻度は変わり、オンラインも活用しながら進めることが想定される。

須坂市三木市長

広報誌では内容がタイムリーではなく、他市町村の情報はわからないため、圏域の他市町村の良い取組やイベントをSNSで発信できると良いのではないかと。

小布施町大宮町長

長野地域連携中枢都市圏PR事業で、対外的な発信以外にも、圏域内に情報を届けることも含めて、共通の情報発信ができると、役割の1つになるのではないかと。

4 意見交換

高山村藤沢村長

令和7年度より、アウェイツーリズム活用事業に参加し、アウェイチームが来た際に、村の地場産品をPRができている。

職員人材確保事業についても連携しており、今年も1, 2名合格しており、非常に感謝している。

飯綱町土屋町長

町長選挙に出るにあたり、住民の皆様と対話タウンミーティングを繰り返し、意見を聞く中で、中学生の部活動の地域移行に関して、保護者が不安に感じていることや子どもたちもしっかりきていないということを感じた。町内にクラブを作り、子どもたちのニーズに応えていきたいが、ニーズが非常に多様なため、連携事業である部活動の地域移行推進事業を活かして、連携しながら進めていきたい。

小川村染野村長

人口減少は最大の行政課題となっており、直近5年の社会増減は5人減となっている。小川村は進学や就職でどうしても若い人が少なくとも20人は転出しているため、相応の転入者がいる。小川村にとって、連携中枢都市圏の事業は、人口減少対策に有効な事業が多くあると改めて感じている。

信濃町鈴木町長

高山村と同様に、職員人材確保事業について連携しており、非常に感謝している。

観光については、信濃町単独で実施していくのは難しいと考えており、長野地域や妙高市等と連携していかなければならない。これらについてはタイムリーに情報を共有することが非常に重要と考えており、内部調整のうえ提案したいと考えている。

千曲市大内副市長

人材育成に関して、千曲市に清泉大学の農学部が来月より着工予定となっており、今後広域にも貢献していきたい。

公共施設マネジメントに関して、P F I や民間活力を導入するために、今年から専門の部署を立ち上げた。国民スポーツ大会に備えて体育館を建てているが、P F I で進めており、今後スマートインターの建設も予定されていることから、周辺の開発や道の駅等を含め、P F I を積極的にやっていきたいと考えている。また非常に専門知識が必要なため、公共施設等マネジメントスキルアップ事業の中で、情報共有や人材育成研修など、期待していきたい。

先ほどから出ている隙間バイトについては、あんずや温泉等で非常に人手が不足しているため、広域で実施することには賛成する。

長野地域振興局坪井局長

県と市町村の協議の場で検討された行政体制の最適化について、情報共有

以上